

いつかもう一度、エルサルバドルへ

小川直生

エルサルバドルには、JICA 海外協力隊員として行きました。大学時代、教員採用試験の勉強の合間に、なんとなく違う進路も見てみようとして JICA 海外協力隊のホームページにたどり着いたのがきっかけです。自分ができる剣道で行ける国はないかと探すと、エルサルバドルだけに剣道の要請がありました。名前も聞いたことがなく、どんなところかも知らないまま、海外を拠点に生活してみたいという好奇心から応募することに決めました。

エルサルバドルという国については、日本から遠く、小さく、治安が悪く、スペイン語を使うという、ネットで調べると検索予測の上位に出でくるようなイメージだけを持ち、エルサルバドルに到着し、生活が始まりました。

私のエルサルバドル生活はスチトトから始まりました。首都サンサルバドルから車で1時間半ほどにある小さな田舎町でした。初めの1ヶ月はスチトトの語学学校でスペイン語の語学訓練を受けることになっていました。私にとって初めての海外での生活ですから、どんな困難やストレスがあるのかと思っていたら、実際にはゆっくりとした時間の中で勉強や生活することができ、エルサルバドルに慣れるのにはとても良い環境でした。

ホームステイ先の私の家族は、これまでに協力隊員を受け入れていたこともあり、スペイン語をあまり話せない私に、いつも優しく接してくれました。お母さんの作るご飯も美味しく、現地の料理を色々と教えてくれました。授業のない休日は、語学学校の先生と朝からビールを飲んだり、綺麗な教会や噴水のある広場を散歩したりと、すっかりエルサルバドルへのイメージは「いい国だな！」に変わりました。



1ヶ月のスチトトでの語学訓練を終えると、いよいよ配属先での活動が始まります。私はエルサルバドル剣道連盟に配属され、剣道の知識・技術指導、普及活動を主な活動としました。ホームステイ先も首都の隣、サンタテクラになりました。まず感じたのは、「エルサルバドルにも都会がある！」で

した。スーパーマーケット、大型ショッピングモール、お洒落なカフェ、スポーツジム、綺麗で大きな公園、日本でも見るようなチェーンの飲食店など、本当になんでもありました。千葉の田舎出身の私にとっては、日本にいる時より都会でした。

配属先での活動も始まり、サンタテクラでの生活はスチトトの時よりアクティブになりました。朝、ホームステイ先のおばあちゃんに朝食の香りとともに起こしてもらい、朝食を済ませると、近所のスポーツジムに向かいます。その日の決めたメニューを終えると、隣のスーパーや公園、露店などを寄り道しながら家に帰ります。午後はスペイン語の勉強や配属先で使う資料作成をし、剣道の練習に向かい、夜9時ごろ家に着きます。平日をこのようリズムで過ごし、週末は土曜の午前中は剣道の練習で、他は休みとなります。



休日のお気に入りの散歩コースは、サンタテクラの観光名所・エルカルメン通りでした。綺麗でカラフルな建物があり、週末には露店が並びます。この通りの先にはカフェタロンという大きな公園もあり、子供からお年寄りまで多くの人で賑わっていました。日本にはあまりない景色に、いつも楽しい気持ちで散歩をすることができました。

充実したサンタテクラでの生活でしたが、エルサルバドル剣道連盟での活動は、軌道に乗るまでに時間がかかりました。私が初めて配属された協力隊員であり、連盟にとっても、私にとっても、全てが新しい挑戦でした。ですが、たくさんの方の協力もあり、色々な場所でデモンストレーションや剣道教室を開催し、同連盟では初となる単独での合宿も行いました。競技者も少しずつ増えていき、普段の練習ではみんな真剣に、楽しそうに練習に取り組んでいました。指導者としては、嬉しい限りです。



サンタテクラでの生活、剣道連盟での活動が順調に進んできた頃、突然連絡があり、コロナウイルス感染拡大に伴い、活動中止となり、協力隊員全員が首都待機となりました。その数日後には緊急帰国が決定し、エルサルバドルでの生活が終了となりました。本当に突然の出来事で、家族や配属先の同僚、競技者、友達、ほとんどの人に挨拶もできないままの帰国になってしまいました。



最終的に、8ヶ月のエルサルバドル生活はとても充実していて、思い出もたくさんあるのと同時に、悔いの残るものとなりました。そんな思いから、またいつかエルサルバドルに行きたい、国際協力の分野で仕事がしたいという気持ちが芽生え、現在は大学院で国際関係などを学んでいます。そして、いつかエルサルバドルでやり残したことを、またできる日を夢見ています。

小川 直生（おがわ なお）氏

鹿屋体育大学を卒業後、2019年8月からJICA海外協力隊・剣道隊員として活動。2020年3月にコロナウイルス感染拡大により帰国。現在は新潟県にある国際大学大学院で国際関係、国際経営を学んでいる。